

# 全国保健師長会 だより

令和元年11月16日(土)に岡山県岡山市において、第41回代議員総会が開催されました。

冒頭、山野井尚美会長から「地域住民の安全と安心を守るため、各自自治体の保健師が平時からの健康危機管理体制の充実が図れるよう、各自自治体の取り組み強化に向け働きかけを行う。また、深刻化する虐待や貧困、自殺、生活習慣病など不確実性の高い課題に対し、解決に向けた専門性の高い活動が求められている。あらゆる世代や健康レベルの人々が、安心して健やかに暮らせるまちづくりを目指し、『地域に責任を持つ』公衆衛生看護活動を展開することが私たちの使命である。その実現に向け本会では、次世代を担う保健師の成長を支援しながら、全国の保健師のつながりを強化していきたい」との挨拶がありました。

## 第41回全国保健師長会 代議員総会報告

全国保健師長会 会長 山野井尚美

### 【基調講演】

基調講演では、「みる・つなぐ・動かす」保健師の原点から住民とともに創る未来」と題して、東邦大学看護学部教授の岸恵美子氏よりご講演をいただきました。

「保健師だけではなく、看護師や福祉職が地域診断や個人・家族のアセスメントを行うようになり、『保健師の仕事とは何か』と若い保健師のアイデンティティが揺らぐようになった。かつて、保健師の仕事は黒子といわれ、前に出ることはなくても、住民のニーズを引き出し、住民が主体的に活動できるようにしていた。その中で住民は保健師に後押しされていることを実感できていた。しかし、さまざまな職種が地域に出てくる一方で、保健師が地域に出なくなり、住民が保健師の存在を感じるようになってきている。今、



基調講演をする岸恵美子教授

保健師は自分たちの仕事や住民や関係機関に見えるように働きかけ、黒子のままでいては

いけない」

「所内の仕事に追われて地区活動が疎かになっていないか。制度の狭間にいる人の健康問題に関わるのは行政の保健師だけである。保健師は個別と集団を連動させ、また事例の背景にある社会問題を察知し、原因を探索して根本的な解決を図ることができ、さらに予防的な視点で潜在的な健康問題を発見し、解決のための事業を計画立案することができる専門職

である。保健師が事業を展開していく上で大切なのはPDCAサイクルである。わがまちがどのような地域や住民になってほしいのか、目的を明確にし、事業実施後に評価し改善を図る。保健師の活動が住民の健康にどれだけ寄与できたのか、専門職として住民への説明責任を果たすことが大切である。保健師は地域活動の蓄積を生かし、地域包括ケアシステムの構築においてリーダーシップを発揮してほしい。そして地域を知っている保健師が、地域に必要な職種であることを伝えていくことが大切である」と、熱いお話をいただきました。

### 【シンポジウム】

引き続き、「地域に責任を持った保健活動について」をテーマにシンポジウムが開催され、山野井会長を座長に、岸教授を助言者として、3名のシンポジストから発表がありました。

まず、「県保健師の立場」から徳島県美馬保健所医療企画担当課長の西和子氏より、精神保健対策の取り組みについて報告がありました。

「地域に出て住民に寄り添い、話し合いを重ねながら地域を動か

してきたことが、自殺対策という新たな課題への取り組みにもつながっている」とし、高齢者のうつ病やひきこもり対策として、精神保健ボランティアと連携した当事者会や家族会の設立、NPOとの連携による就労体験場所の設立、学校保健との連携による子どものメンタルヘルス研修会等が紹介されました。また、「保健活動で大切にしたいのは、住民や地域に愛着と責任を持つこと、個別に丁寧に関わる中で『地域を知る努力』をすることである。保健師は黒子ではなく他職種他機関との顔が見える連携の結び目として活躍してほしい」と話されました。

次に、「市町村保健師の立場」から出雲市健康福祉部健康増進課統括保健師の福岡紀子氏より、健康



シンポジストの方々。右から大西和子氏、福岡紀子氏、木尾敬子氏

のまちづくり基本計画と住民とともに進める健康づくりについて報告がありました。「第2

次健康増進計画策定で大切にしたいのは、住民の健康実態・住民の思いを計画に盛り込むこと、計画は住民および組織代表と共に策定・役割の確認をしたこと、全保健師・栄養士が参画し丁寧な作業を進めたこと」と話されました。また、住民と共に進める健康づくりでは、地区担当保健師が全43地区の地区診断シートを作成し、地区の健康課題を住民と共有、活動を展開することにより、健康づくりのネットワークづくりが進んでいるとの紹介がありました。さらに、統括保健師が配置されたことで、地域に責任を持った活動を行う保健師を育成するための人材育成プログラムが作成され、保健活動全体に通じる重要なキーワードとして、「みる・つなぐ・動かす」に「伝える」を加えて取り組んでいるとのことでした。

最後に「政令指定都市保健師の立場」から岡山市保健所健康づくり課参事の木尾敬子氏より、時代が変化しても変わらず引き継ぐものとして、(1)豊かなソーシャルキャピタル (2)点から線、そして面へ (3)住民主体の健康づくり (4)先輩諸姉から連綿と続く人づくり (5)分散配置を生かす (6)東区

保健センターにおける西日本豪雨浸水被害への対応のそれぞれの視点から、保健師の活動を引き継ぎ、後輩育成をしていく」という詳細な活動の紹介がありました。そして、「地区担当制を固辞」「保健活動に科学的根拠と夢を」「活動の見える化を図り、理解し協力してくれる人を増やす」「生活者としての視点を忘れず、常に住民目線を大切に」「探求心を持ち、自己研鑽を」「仲間とともに成長し合える職場環境を」「住民と共に歩みを支える保健活動」「健康な地域づくりの裁量があるからこそ責任もある」を次世代へ伝えていく保健師マインドとしていとまとめました。

報告後に意見交換が行われ、最後に岸教授より、ご助言がありました。「地域を見て地域の課題を政策に結び付けていく活動に人材育成を絡めていくこと、地区を見るとはどういうことかを若い保健師に見せていくこと、『つなぐ』では保健師が他部署や関係機関との結び目になり、『動かす』ではアウトソーシングした事業も含めて評価していくことが大切である。そして保健師は、制度から漏れている人のニーズや、起こり得る健康問題を予測することができる。その

強みを生かし保健師活動を実践してほしい」と締めくくられました。

### 【総会】

午後の総会では、提案された議案はすべて承認されました。昨年度の総会で否決された「会員の資格に関する規約改正」についての議案提出は見送るものの、今後検討課題とするとの報告がありました。

令和2年度の活動テーマは「未来を創造する公衆衛生看護活動の展開」保健師活動の原点から住民とともに創る未来」です。活動方針は、1. より専門性の高い公衆衛生活動の推進 2. ブロック、支部活動のより効果的な推進 3. 各自自治体の災害時対策における保健師機能発揮に向けた取り組みの促進 4. 活動の安定的推進に向けた組織運営の充実」の4つとなりました。また、役員・推薦委員の改選があり、会長、副会長1名、監事1名、推薦委員3名が選任されました。

最後に次期開催県である大分県支部長の後藤芳子氏から「次年度は支部の力を結集して会員の皆さまを迎えたい」との挨拶があり、閉会となりました。

(文責)広報委員会